

令和元年6月18日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H01987

研究課題名(和文) 日本型21世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究 - 多元的モデルの構築

研究課題名(英文) A Cross-National Study of the Internationalization of 21st Century Japanese Style Education:

研究代表者

恒吉 僚子 (Tsuneyoshi, Ryoko)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授

研究者番号：50236931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、各国において、グローバルな規模で他国の教育を参照し、自国に取り入れてゆく「教育のトランスファー」が活発化する中、国際スタンダード化し、参照される国際モデルの多くが西欧発のものであり、国際的な教育モデルの多元化の必要性を認識するところから出発した。そして、アジアの一国として、国際的に見た日本の教育の特徴、課題と長所を国際比較を通して分析し、国際モデル化して発信した。研究成果は研究(図書、シンポジウム)、実践(教材、HP <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/>等)の両面においてなされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の教育に対する海外の関心は2015年あたりから盛んになり、従来の国際化した日本の教育モデルの代表格(授業研究)に続いて、日本の教科と教科以外を共にカリキュラムで全人的に扱う枠組み(その象徴の特別活動からtokkatsuと名付けられる)が脚光を浴びている。本研究は国際比較の中から日本の教育の国際的な強さを特定し、ともすると表層的な形式の模倣に終わろうとした教育トランスファーの取り組みを研究に根差した視点から批判的に提示した。英語で本モデルの最初の本(Tokkatsu)、映像教材等も発行した。

研究成果の概要(英文)：In our era of globalization, there has been a renewal of interest in the education of other countries as models for one's own country--educational transfer. It is probably fair to say, however, that the majority of educational models which are considered international standards and are models for other countries are western in their origin. There is a need to diversify the models available in the international arena. This project, starting from this understanding, analyzed the strengths and weakness of Japanese style education cross-nationally, and presented an international model. The results have been published, announced in symposiums, and have informed practice(e.g., teaching material, HP on tokkatsu, [HP on tokkatsu, <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/>](http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/)).

研究分野：教育社会学、比較教育学

キーワード：「日本型」教育 教育トランスファー

1. 研究開始当初の背景

今日、21 世紀型能力や資質の育成を目指して各国が教育改革を推進し、国家間で教育モデルの借用が盛んである。多様な国々が参画しているものの、本研究を始めた当初は、21 世紀型能力や資質を育成する教育の論理や実践枠組み、つまり、改革のマスタープランに関しては、西欧先進諸国のモデルがその旧植民地での影響力も含め、国際的に優位であった。これは、21 世紀型対応の教育がどのような論理で、どのような枠組みで行なわれるかに関わり、いわば、21 世紀型対応教育の形成に関わる部分である。ここにおいて国際モデルが西欧先進国 (特にアメリカ) に集中しているということの問題性は、充分日本国内では意識されてこなかったと考えられた。モデル借用の観点から見た日本の教育実践の特徴やモデルの国際化に関する研究は日本の「授業研究(レッスン・スタディ)」関連の研究以外は、断片的にしかなされてこなかった傾向が問題視された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、教育トランスファー、教育政策のトランスファーの領域に関連し、国際的に日本の 21 世紀型対応の教育モデルを位置付けて分析し、以下で見ると「研究実践」を連続的に位置付け、国際モデルの多元化を模索することにあつた。21 世紀型能力や資質とそれを育成する教育についての理解が、かつてないほどグローバルに共有され、各国の教育政策を左右してゆく中、21 世紀型対応教育の国際モデルが西欧先進国モデルに収斂してゆくことは、多元性の観点からも好ましくない。アジアをはじめとする西欧諸国以外の発信による国際社会でのモデルの多元化は、21 世紀型能力・資質をめぐる言説の多元化にもつながると考えられた。本研究は A. 国際社会の中で見た日本の 21 世紀型能力や資質に対応した教育の特徴とその背後にあるメカニズムの国際比較研究という実態分析を背景とした共同研究の次元と、B. A. の研究結果を受けた重点分野における日本のモデルの国際モデル化という実践的研究・概念化の次元と、C. B. の日本のモデルを用いて海外教員研修機関 (シンガポールとアメリカ等) と協力した研修、日本の先進的実践の国際発信 (センターの研究プロジェクトのホームページと独自ホームページから発信) 多言語による教師用ガイドブックの作成 (独自ホームページからダウンロード可能にした) 及び、データを分析しながら、実践現場にフィードバックするというアクション・リサーチの次元との三層に分かれ、そのいずれもで相互に関連した成果を出す計画をした。

3. 研究の方法

方法として、東京大学の学校教育高度化・効果検証センターを基盤とし、海外協力者との連携を通して、国際共同研究、西欧の代替モデルの概念化、海外教員の研修を相互に関連させて推進し、「研究実践」を連続的に位置付け、国際モデルの多元化を模索した。

4. 研究成果

西欧先進国発の教育モデルが国際社会で多い中で、非西欧圏からのモデルによる多元化を図ろうとする意図は非教科と教科とを統合的に全人的な教育枠組みから組み合わせた「日本型」教育モデル tokkatsu が海外で受け入れられつつあるという意味では部分的に実現した。

図書としては、英語で最初の「日本型」教育の全人的な枠組みによるモデル tokkatsu についての書をまとめ（*The Japanese Educational Model of Holistic Education: TOKKATSU*, 下記）、同時に、日本の教育の国際化の課題についても、英語での学術図書としてまとめた（下記）。毎年、国際シンポジウム、ないしシンポジウムを開催し、問題提起をした。シンガポール、台湾、フィリピン、タイ、インドネシア、アメリカ等へ調査や教員研修に出かけ、研究実践の連携における成果を出してきた。インドネシアにおける教員研修においては、ボトムアップ的な研究協力を行なう方向で、研究・教育交流が開始している。2019年6月にはインドネシアの視察団が来日する。東京都等の特別活動関連資料を用いて英語による教員用ガイドブックを作成したが、それを英語、インドネシア語、アラビア語、ベトナム語、中国語、マレー語と多言語化した。国際発信すべく英文ホームページ（*The Japanese Model of Educating the Whole Child: TOKKATSU*, <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/>）も開設されているが、そこからダウンロード可能な形で提供されている。

DVD 教材もシリーズとして三つ発行されている。

- 1) *Japanese Whole Child Education: Learning from Cleaning and Lunch, Tokkatsu Series 1, 2015.*
- 2) *Myoko Friendship School: Linking TOKKATSU with Social Education, Tokkatsu Series 2, 2017.*
- 3) *Essay Education for Life, Tokkatsu Series 3, 2018.*

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

Tsuneyoshi, R.(2019).Discussing the "Multicultural" in Japanese society. In Omomo, T., Katsuno, M. and Kitamura, Y.(Eds.), *Education in Japan: Reforms of education governance and quality assurance* (pp. 177-195,ch11).Singapore: Springer.

恒吉僚子(2018).「近未来が求める子どもの資質と能力」『日本教育』4・5 月合併号, No. 476, 12-15.

恒吉僚子(2016).「世界の小学校教育と日本型の教育の可能性(特集 日本型教育の可能性と学校行事の役割)」『道徳と特別活動』8 巻、4-7.

Tsuneyoshi, R., Kusanagi, K., & Takahashi, F. (2016.8.). Cleaning as Part of Tokkatsu: School Cleaning Japanese Style. *Working Paper Series No. 6 in the 21st Century International Educational Models Project, Center for Excellence in School Education, Graduate School of Education, The University of Tokyo,* <http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/wp/>

Tsuneyoshi.R.(2015). The World of Tokkatsu (Arabic).報告書(本科研),1 巻,1-53 .

http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/cms/wp-content/uploads/2016/03/Tokkatsu_Guidebook_Arabic.pdf

恒吉僚子編.日本全童教育方式(中国語).報告書(本科研),1 巻,1-53 .

http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/cms/wp-content/uploads/2016/03/Tokkatsu_Guidebook_Chinese.pdf

高橋史子(2016).「「文化」の適応と維持からみる日本型多文化共生社会 ニューカマー児童・生徒を教える教師へのインタビュー調査」『異文化間教育』,46 巻.

Sumino,M.(2015). Schools Supporting the Migrant Population in Japan: The Night Junior High Schools. *Working Paper Series in the 21st Century International Models Project, Cent. for Excellence in Education, Univ. of Tokyo,1N2,1-15.*

<http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/wp/>

Komoto,A.(2015). Collaborative efforts to build interpersonal skills and emotional maturity across school levels through tokkatsu: The case of Kuwabara Junior High School and Elementary School. *Working Paper Series in the 21st Century International Models Project, Cent. for Excellence in Education, Univ. of Tokyo,1N5,1-20.*

<http://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/wp/>

〔学会発表〕(計 16 件)

恒吉僚子.(2018.3.3.),「特別活動と教科教育がもたらす認知的・非認知的スキルのコラボレーション」(子どもの貧困に教育・福祉はどのように立ち向かっているか - 認知スキルと非認知スキルのコラボレーションが子どもの未来をつくる -)(ビデオ出演) 東京大学教育学研究科・

- 学校教育高度化・効果検証センター、東京。
- 恒吉僚子.(2017.9.18),「教育研究の国際化」,高麗大学(東アジア人文教育研究会),韓国。(招待講演)。
- 恒吉僚子.(2018.9.7), Enhancing Teaching & Learning, as well as Holistic Education, through Lesson Study & Tokkatsu, Singapore International School of Bangkok,タイ。(招待講演)。
- 恒吉僚子.(2018.10.20),Learning to Grow Together, Seminar. Bandung, GagasCeria/BPI primary school,インドネシア。(招待講演)。
- 恒吉僚子.(2018.11.30), Japan's Educational System and Talent Cultivation: The Current Situation of Education and Challenges in Japan, 21st Century Talent Cultivation: Autonomy, Interdisciplinarity, and Innovation in the Educational System (台湾國家教育研究院 National Academy for Educational Research), 台湾。(招待講演)。
- 恒吉僚子(2017.2.23.).Diversification of Education Transfer: The Japanese Education Model in a Foreign Context, University of Tokyo Joint International Seminar between Stockholm University, University of Jyväskylä, and University of Tokyo. International Seminar Education for Diversity, University of Stockholm, スウェーデン。
- 恒吉僚子、Eero Ropo、杉田洋、田中伸一郎、高橋史子、草薨佳奈子、藤村宣之、北村友人(2016.12.10.),「国際化モデルとしての日本モデルの可能性や課題 -国際比較と新モデルの生成」,共同発表(恒吉僚子、高橋史子、草薨佳奈子) 日本型 21 世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究 多元的モデルの構築プロジェクト(科研 A) シンポジウム『海外における「日本式」教育モデル エジプトへの導入開始とフィンランド・シンガポールからの示唆』,学校教育高度化センター主催(本科研プロジェクト) 東京。
- 恒吉僚子(2016.10.21.), The Japanese Model of Schooling and Whole Child Education: Tokkatsu. The Development of Curriculum Field and Reform in Taiwan for Recent 20 Years, ACI and the Department of Learning & Media Design, Taipei Municipal University, 台湾。
- 恒吉僚子(2016.8.26.), Japanese and Singapore Education Models, Education Transfer & Comparative Policy Learning, The Head Foundation Workshop, with F. Takahashi, K. Kusanagi, K.Iwabuchi. シンガポール。
- 恒吉僚子(2016.8.25.), Cleaning as Part of School Education Japanese Style: The Framework of TOKKATSU, seminar, National Institute of Education, シンガポール。(招待講演)。
- 恒吉僚子(2016.3.), Social and Emotional Learning in Japan, in session, Social Change and Educational Reform in Asia, Comparative and International Education Society 2016 annual meetings,(バンクーバー)カナダ。
- 恒吉僚子(2016.1.29.), Challenges of Diversity in Asian Education, Comparative and International Education Society Asia (CESA) 2016,(マニラ)フィリピン。(招待講演)。
- Tsuneyoshi,R.(2015.11.26.). Best Practices in Collaborative Learning. Thailand's Educational Leader Symposium,Askorn, Chulalongkorn University(国際学会),(バンコク)タイ。(招待講演)
- Akita,K.(2016.9.3.). Characteristics of Innovative Professional Learning Communities: Inquiries for Deep Learning, World Association of Lesson Studies 10th conference. エクスター大学、(国際学会)、イギリス。(招待講演)。
- 杉田洋(2016.12.10),「エジプトでの TOKKATSU PLUS の展開」,東京大学教育学研究科附属学校教育高度化センター,東京大学,東京。
- Eero Ropo(2016.12.10),「フィンランド型教師教育ーアジア・南米での経験(英語)」,東京大学教育学研究科附属学校教育高度化センター,東京大学,東京。

〔図書〕(計 2 件)

- Tsuneyoshi,R., Sugita,H., Kusanagi,K., & Takahashi,F.(Eds.).(2019). *The Japanese educational model of holistic education: Tokkatsu*. Singapore: World Scientific. (Related chapter). Tsuneyoshi, R. The tokkatsu framework: The Japanese model of holistic education, pp. 3-36. Sugita, H. The essentials of tokkatsu, pp. 37-54. Tsuneyoshi, R. Safety and disaster prevention education as education for life, pp. 69—76. Tsuneyoshi, R. Tokkatsu as the core of career education, pp. 91-93. Takahashi, F. and Tsuneyoshi, R. Classroom activities on cleaning and lunch: Tokkatsu series DVD, pp. 95—107. Kusanagi, K., Takahashi, F., Chun-Yi Tan, and Tsuneyoshi, R. Implications of comparing school cleaning across educational contexts: Interpretation and practice in Japan, Taiwan, and Singapore, pp. 119—137. Kusanagi, K. Transformation of lesson study in Indonesia: From government-assisted projects to professional learning communities, pp. 259—282. Tsuneyoshi, R. Conclusion, pp. 307-313.
- Tsuneyoshi,R.(Ed.).(2018). *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in education :*

Insider's views into a changing system. London and New York: Routledge. (Chapters)
Tsuneyoshi, R. and Kitamura, Y. Introduction, pp. 3-18. Tsuneyoshi, R. "Exceptionalism"
in Japanese education and its implications, pp. 19-42. Kitamura, Y. Global citizenship
education in Asia, pp.61-76. Tsuneyoshi, R. , Takahashi, F. and others. Japanese
schooling and the global and multicultural challenge, pp. 190-212.

[その他]

ホームページ等

Educating the Whole Child: Tokkatsu, <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/>

東京大学教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センタープロジェクトページ

<https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/projects-list/jpmodel/>

東京大学未来社会協創推進本部登録プロジェクト

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/fsi/ja/sdgs_project121.html

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：杉田 洋

ローマ字氏名：Sugita, Hiroshi

所属研究機関名：国学院大学

部局名：人間開発学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁) : 70390581

研究分担者氏名：伊藤 秀樹

ローマ字氏名：Ito, Hideki

所属研究機関名：東京学芸大学

部局名：教育学部

職名：講師

研究者番号 (8 桁) : 80712075

研究分担者氏名：秋田 喜代美

ローマ字氏名：Akita, Kiyomi

所属研究機関名：東京大学

部局名：教育学研究科

職名：教授

研究者番号 (8 桁) : 00242107

研究分担者氏名：藤村 宣之

ローマ字氏名：Fujimura, Nobuyuki

所属研究機関名：東京大学大学院

部局名：教育学研究科

職名：教授

研究者番号 (8 桁) : 20270861

研究分担者氏名：小玉 重夫

ローマ字氏名：Kodama, Yoshio

所属研究機関名：東京大学大学院

部局名：教育学研究科

職名：教授

研究者番号 (8桁): 40296760

研究分担者氏名: 北村 友人

ローマ字氏名: Kitamura, Yuto

所属研究機関名: 東京大学大学院

部局名: 教育学研究科

職名: 准教授

研究者番号 (8桁): 30362221

研究分担者氏名: 堀井 秀之

ローマ字氏名: Horii, Hideyuki

所属研究機関名: 東京大学大学院

部局名: 工学系研究科

職名: 教授

研究者番号 (8桁): 10181520 (途中退任)

研究分担者氏名: 高橋 史子

ローマ字氏名: Takahashi, Fumiko

所属研究機関名: 東京大学大学院

部局名: 教育学研究科

職名: 助教

研究者番号 (8桁): 80751544

研究分担者氏名: 草薨 佳奈子

ローマ字氏名: Kusanagi, Kanako

所属研究機関名: 東京大学

部局名: 教育学研究科

職名: 特任研究員

研究者番号 (8桁): 00777873

(2) 研究協力者

研究協力者氏名: キャサリン・ルイス

ローマ字氏名: Catherine Lewis

研究協力者氏名: クリスチャン・リー

ローマ字氏名: Christine Lee

研究協力者氏名: キャサリン・ヒグビー

ローマ字氏名: Catherine Higbee

研究協力者氏名: 代 玉

ローマ字氏名: Daiyu

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。